

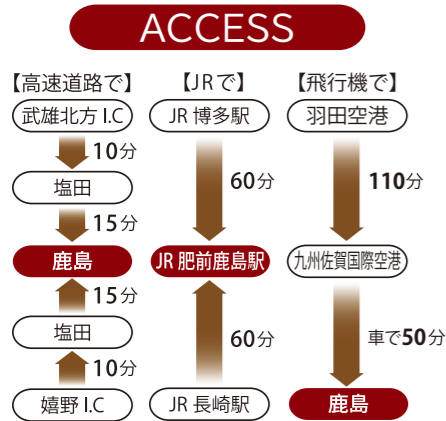
鹿島市ってどんなところ？

佐賀県の西南部に位置し、東には有明海が広がり、西は多良岳山系に囲まれ自然環境に恵まれたところです。福岡市と長崎市からはJR長崎本線で約1時間の距離にあります。就業人口の割合が県内10市で最も高いことが本市の特徴です。

年間300万人の参拝客が訪れる日本三大稲荷の一つの祐徳稲荷神社や有明海の自然を生かした地域おこしのイベント「ガタリンピック」などがあります。

また、県下でも有数の酒どころでもあります。多良岳山系の清水や良質なお米に恵まれたこの地では、江戸時代から酒造りが盛んで今も醸造を続ける酒蔵が市内に6蔵あり、毎年3月に行われる「鹿島酒蔵ツーリズム®」では、県内外から多くの人が訪れます。

《総面積》 112.12km²
 《人口》 29,684人
 《世帯数》 10,124世帯 ※平成27年国勢調査



【祐徳稲荷神社】

日本三大稲荷のひとつに数えられ、年間300万人もの参拝客で賑わいます。創建は江戸時代の1687年で商売繁盛・家運繁栄などの御利益で知られています。



【ラムサール条約湿地(肥前鹿島干潟)】

平成27年に「肥前鹿島干潟」がラムサール条約湿地に登録されました。肥前鹿島干潟は、東アジアにおけるシギ・チドリ類の重要な渡りの中継地及び越冬地となっています。



【鹿島酒蔵ツーリズム®】

毎年3月末に市内6つの酒蔵が同時に蔵開きを行い、各蔵では酒の試飲販売やさまざまなイベントが行われます。また他の観光スポットも周遊することができ、鹿島市の魅力を満喫できます。



【世界にはばたくものづくり】

世界に優れた技術により業界をリードする企業をはじめ、昔ながらの技法をいまに受け継ぐ伝統工芸など多種多様な技術が受け継がれています。



【ガタリンピック】

1985年に始まった有明海の広大な干潟を舞台に繰り広げられる干潟のオリンピック。ガタスキーやガターザン、ガタチャリなど、ユニークな競技に出場者はもちろん観客も楽しめるイベントです。



【鹿島の大地・海が育てた特産品】

大自然の宝庫である多良岳山系と日本一の干潟を有する有明海の恵みを受けて育った美味しいものがたくさんあります。(有明海苔・みかん・日本酒など)

佐賀県鹿島市



鹿島ライフ 始めませんか？

みんなが住みやすく暮らしやすいまち

移住ガイド



■移住・定住についてのお問い合わせは

鹿島市 企画財政課 TEL.0954-63-2101

〒849-1312 佐賀県鹿島市大字納富分2643番地1
<http://www.city.saga-kashima.lg.jp>

住む

《重要伝統的建造物群保存地区 肥前浜宿の歴史的町並みに住む》



浜中町八本木宿

先輩移住者の声



肥前浜宿に移住した
木下 英時さん

鹿島市に住む友人に誘われたのがきっかけで、浜宿のまちなみが気に入り2014年に移住しました。酒蔵通りに面した物件を改装し、レンタルスペースを運営しています。移住してきた仲間たちや地域の人たちと一緒にイベントを企画したり、この地域をもっとメジャーにしたいという想いで、毎日充実した生活を送っています。

肥前浜宿は中世(鎌倉・室町時代)にさかのぼる古い歴史を持った町で、異なる風情を持つ2地区が、平成18年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。肥前浜宿は酒蔵通りを核とした「鹿島酒蔵ツーリズム」をはじめとする様々なイベントの開催により知名度も向上、多くの観光客が訪れる観光地として成長しています。

空き町家改装費補助

- 対象となる人…鹿島市内に3年以上居住していた人で、保存地区内の空き町家に5年以上居住または営業する人、かつ肥前浜宿のまちづくりに協力する人
- 補助率…補助対象経費の2/3(補助限度額:200万円)
- 補助対象範囲…建物の住居部分、店舗部分及び建物に付帯する部分

家賃補助

- 対象となる人…鹿島市外に3年以上居住していた人で、保存地区内の空き町家に住民票を移し5年以上定住する人、かつ肥前浜宿のまちづくりに協力する人
- 補助率…家賃の2/3(補助限度額:5千円/月)
- 対象となる期間…居住した日から2年間

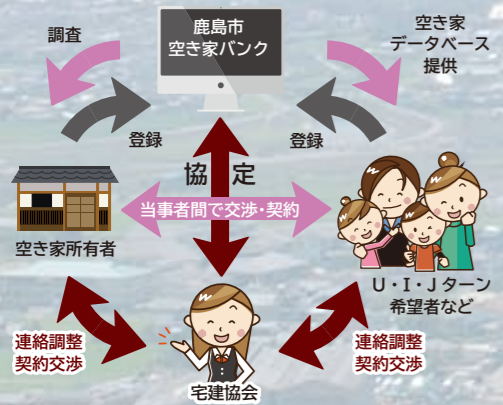
古民家でお試し移住

～重伝建地区内に移住体験施設ニューオープン～
 使用料:1泊あたり1,500円/棟 ※光熱水費込み
 対象:市外からの移住希望者
 (1グループ限定 最大5名程度)
 利用期間:2週間以上1か月以内



住む

《空き家に住む》



空き家バンク制度

鹿島市では、空き家を有効に活用するため、宅建協会と連携して、移住を希望される方に空き家の情報を提供しています。空き家を活用したい人、U・I・Jターンで鹿島市への移住を考えている人など、まずは登録してみませんか。

空き家活用事業助成金

- 空き家バンクに登録された空き家の改修工事に対して、改修費を助成します。
- 対象となる人
 - ・3年以上市外に居住した人が市内の空き家に住民票を移し、継続して3年以上定住しようとする人
 - ・3年以上市外に居住した転入者に空き家を賃貸し、延べ3年以上活用しようとする建物の所有者
 - 助成率…助成対象経費の1/2(助成限度額:50万円)
※市内の業者が工事を行うことが条件です。

住む

《定住促進住宅に住む》



鹿島市定住促進住宅は、鹿島市への定住を促進するために、公営住宅法によらず市が独自に供給する住宅です。日本三大稲荷の祐徳稲荷神社にほど近く、自然豊かなところ。国道207号バイパス沿いに立地し、500メートル圏内に保育園、小学校、中学校、コンビニなどがあります。

市外からの移住者には優遇あり!

- その1. 月々の家賃から3,000円が減額されます。
- その2. 小学校就学前の子どもがいる場合は、さらに2,000円が減額されます。
- その3. 敷金(通常は家賃の2か月分)が免除されます。
(その1、その2の優遇は入居後2年間限定です)

※平成30年度内に市営中村住宅が完成予定(子育て支援住宅20戸・市営住宅20戸)

働く

鹿島市内の様々な地域資源を活かし、新しい事業に取り組みたい、自然の中で働きたい等意欲のある人を積極的に支援します。



かしまビジネスサポートセンター

「かしまビジネスサポートセンター」では、移住者の起業に関する相談支援を行っています。相談の内容に応じ、各分野の専門相談員が無料で対応します。

創業支援

鹿島市では、起業を目指す人への支援を強化するために、「創業支援事業計画」を策定しました。この計画に基づいて、鹿島商工会議所等が実施する「特定創業支援事業」による支援を受けた人は、さまざまな支援措置を受けることができます。

空き物件等活用改装費補助

市内の空き物件を活用した創業・オフィス等の開設を支援します。
●補助率…改装費の100%(補助限度額:250万円)
※その他賃貸料補助等との併用が要件

就農支援

鹿島市は第1次産業が盛んな地域です。平野部から山間部まで、様々な農産物が生産されています。農業経営者になることに強い意欲をもった人に、研修期間や経営が軌道に乗るまでの間を支援するための給付金や研修施設であるトレーニングファームでの実践的な研修機会の提供などの支援を行っています。

育てる

鹿島市は、「結婚・出産・子育て」という人生のライフステージそれぞれにおいて、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを推進しています。



子育て支援センター 子育てひろば『わ・わ・わ ぽっと』

脳や身体の発達を促す大型遊具や絵本、お絵かきコーナーなどがあるひろばは親子で自由に過ごすことができ、育児の悩みや不安、心配事などを子育てアドバイザーに気軽に相談できます。また、季節に応じた行事、手遊び・運動遊びや読み聞かせ、子育てクッキング等を通して、子ども同士、親同士の交流を広げる楽しい「ひろばの集い」も行っています。

子育てを全力で支援します

- 子どもの医療費助成
0歳～15歳(中学3年生)までの保険診療にかかる自己負担額の一部を助成します。
- 乳幼児健康診査
大切なお子さんの健やかな成長を見守るために、4か月児、9～10か月児、1歳6か月児、3歳6か月児の健康診査を無料で実施しています。
- 放課後児童クラブ
昼間、保護者がお仕事等で家にいない家庭の小学校児童を、放課後や夏休み等に預けることができる放課後児童クラブを全校区に設置しています。
- こんには赤ちゃん訪問
母子保健推進員が、生後2～3か月と1歳頃の市内すべての赤ちゃんのお宅を訪問し、健診の案内をお渡ししたり、相談に応じたりします。その他、妊娠・出産・育児等に関して必要な場合は保健師・助産師が訪問します。

市内の保育所・幼稚園・学校等数

保育所	14	小学校	7
幼稚園	1	中学校	2
認定こども園	1	高等学校(県立)	1

暮らす

鹿島市が目指す都市像は「みんなが住みやすく、暮らしやすいまち」です。

医療

市内には、小児科、内科、外科、歯科など、約40の医療機関があります。休日・夜間の医療体制は、在宅当番医制や夜間の小児救急医療の体制が整っています。

水

鹿島市は多良岳山系からの清らかな地下水に恵まれており、市内で供給する水道水の水源はすべて地下水です。安全で美味しい水がいつでも飲めます。

防災

防災意識の高まりにより安全安心のまちづくりが求められています。市では防災機能の拠点となる鹿島新世紀センターを建設。災害時の必要な情報をお知らせする情報伝達システムとして各戸へ告知放送受信機の設置を進めています。また、市民と一体となった自主防災組織の育成や災害時の備蓄品を充実させ、災害に強いまちづくりを進めています。

※平成28年9月に新世紀センターが完成しました。防災情報伝達、災害対策の核となる施設です。